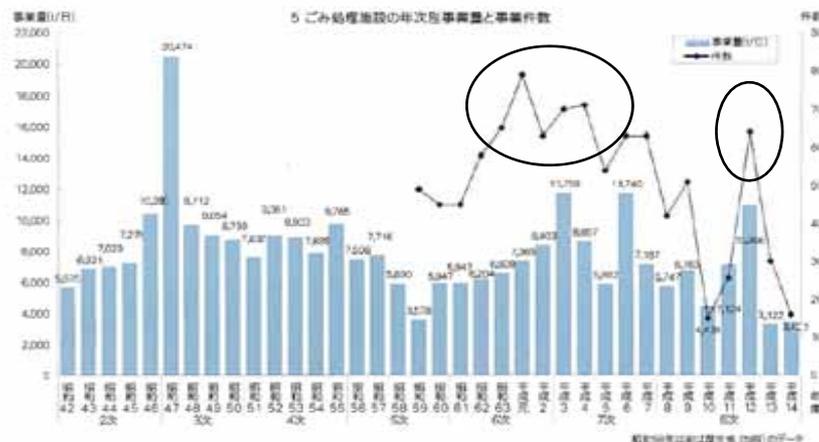


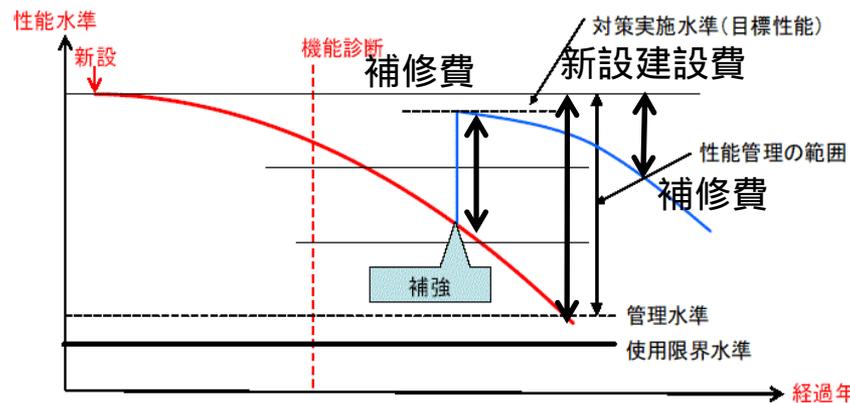
廃棄物処理施設におけるストックマネジメント

更新整備が必要な施設の増加



▶平成元年度付近に施設整備が増加、現在、建設後20年以上経過した施設の割合は約31%、10～20年経過した施設は約47%に達している。今後、これら施設の更新整備が増加する。

ストックマネジメントによる予防保全



▶補修費 + 補修費 < 新設建設費
 ▶廃棄物処理施設に求められる性能が、管理水準以下に低下する前に、機能保全コストの最小化の観点から、経済的に耐用年数の延伸を図る目的で実施する。

施設の劣化状況、安全性の低下



フランジ腐食



ガス冷却装置腐食

インペラ腐食



ストックマネジメントに基づく施設の長寿命化

▶施設の構造性能の低下が致命的になる前に補修・補強等を実施する予防保全対策によって経済的かつ効率的に施設の長寿命化を図ることができ、施設の性能を満足したままの延命化により財政負担も軽減し、既存ストックの有効利用が図られる。

▶設備や機器が最新型になることにより、効率的な運転の実現、安定化した環境対策、電気費用の低減等による省エネルギー化等の効果が発揮され、温暖化対策にも資する。